

国見学園コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域が力を合わせて子どもたちの未来をつくる

令和7年12月

(事務局：国見町教育委員会教育総務課 ☎585-2119)



教職員の働き方改革を前進させるために！ 私にできることは何だろうか？

11月11日（火）、くにみ幼稚園において第4回国見学園コミュニティ・スクール委員会が開催されました。

保育参観と地域学校協働本部事業の報告を受けた後、（株）先生の幸せ研究所コンサルタントの大野大輔様から助言をいただきながら、「**教職員の働き方改革を前進させるために！私にできることは何だろうか？**」をテーマに5つのグループに分かれて熟議が行われました。



＜熟議の様子＞ < 熟議で出された考え > （一部抜粋） < 各班からの発表 >

学校の業務、先生方の大変な事情について知ること

働き方改革の取組を多くの人に知っていただくために、様々な場面で話題にすること

人材ネットワークの提供

放課後の学びサポート

校内清掃の手伝い

先生方が地域に望んでいることを知り、その実現のために改革意識を持って取り組むことが大切である。

地域行事などでの子どもたちの見守り

学習支援（総合的な学習の時間等）

学校等で使用する資材の提供（物を集める時間の節約）

部活動・クラブ活動のサポート

行事やイベントの支援

体験活動の場の提供

授業改革への指導・助言

部活動地域展開の推進

学校行事の精選

週予定表等の組み換え

校内清掃の回数削減

国見なら「地域をひとつの教室にできる!」(一部抜粋)

～コミュニティ・スクールの可能性～

熟議の後、先生の幸せ研究所の大野大輔様からあらためて指導・助言をいただきました。

<学校と地域が互いにメリットを実感できる持続可能な取組へ>

- 働き方改革に地域総出で取り組んでくれていることに対して、やはり学校は応えていかなければならない。
- 地域が学校のためにしてあげる矢印と学校が地域のためにしてあげる矢印はとても大事であるが、もっと大切な上位概念があると思う。お互いにWin-Winであること、お互いにメリットがあって、それが実感できると持続可能になると思う。2方向の矢印だけだといずれきつくなってしまう。どうやって循環型にしていくかが大切である。



<地域の方と学校の先生と一緒に話す場を>

- 「地域の方と学校の先生が共に話す場があると物事の進み方が速い。」と思っている。学校の年間計画(カリキュラム)を見ながら、地域の方が、例えば「計画のこの部分で、出前授業として餅つき名人を連れて来れるよ。」とか「〇〇さんに言えば出来そうだよ。」みたいに、年間計画を見ながら一緒に授業づくりができる。年間計画というストーリーの中に出前授業を取り込んでいけると、よりプロジェクト化され探究としての質が高まる。



<地域がひとつの教室になっていくと・・・>

- 地域の中には様々な人的・物的資源がある。それを駆使できるのがCS委員会のひとつの価値である。地域がひとつの教室になっていくイメージ、国見町がひとつの教室になっていて、その境目がなくなり、色々な方のマッチングが起きて、地域課題なども子どもたちと一緒に解決していけるのではないかと。これが本当の意味で実現できている町はほとんどないが、国見町ならできると感じながら皆さんの話をきいていた。

